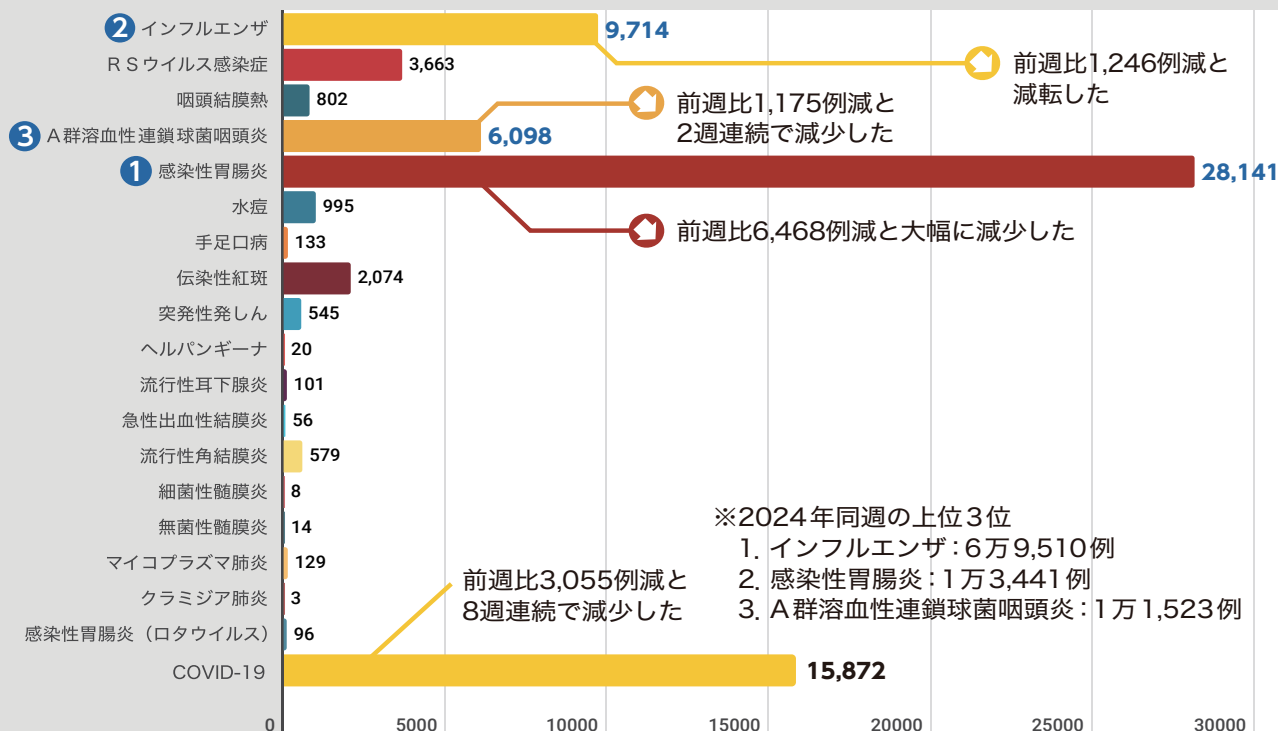




国立感染症研究所が発表する感染症発生動向調査週報「定点把握疾患(週報告)、累積報告数、定点当たり累積報告数、都道府県別」に基づいて、毎週の感染症報告動向をお届けする。

上位感染症は減少もRSV感染症などが過去最多

丸数字は上位3位 ※COVID-19は除く



(国立感染症研究所のデータを基に編集部作成)

① 感染性胃腸炎

報告数

1. 東京都: 2,823例
2. 神奈川県: 1,869例
3. 大阪府: 1,786例

定点当たりの報告数(9.04)

- | | | | |
|---------------|----------------|---------------|----------------|
| 1. 大分県: 19.14 | 4. 鹿児島県: 15.16 | 7. 熊本県: 13.16 | 10. 群馬県: 11.27 |
| 2. 愛媛県: 16.83 | 5. 香川県: 13.79 | 8. 富山県: 13.07 | 11. 島根県: 11.13 |
| 3. 宮崎県: 15.92 | 6. 福井県: 13.52 | 9. 石川県: 11.90 | 12. 福岡県: 11.05 |

② インフルエンザ

報告数

1. 東京都: 810例
2. 神奈川県: 695例
3. 北海道: 616例

定点当たりの報告数(1.98)

- | | | | |
|--------------|--------------|---------------|---------------|
| 1. 新潟県: 5.02 | 4. 栃木県: 3.82 | 7. 秋田県: 3.08 | 10. 岩手県: 2.44 |
| 2. 長野県: 4.80 | 5. 富山県: 3.67 | 8. 北海道: 2.79 | 11. 福井県: 2.31 |
| 3. 沖縄県: 4.20 | 6. 福島県: 3.54 | 9. 和歌山県: 2.60 | 12. 群馬県: 2.30 |

③ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

報告数

1. 東京都: 580例
2. 北海道: 508例
3. 埼玉県: 394例

定点当たりの報告数(1.96)

- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|---------------|
| 1. 茨城県: 4.53 | 4. 新潟県: 3.58 | 7. 福岡県: 3.27 | 10. 千葉県: 2.57 |
| 2. 富山県: 3.97 | 5. 鳥取県: 3.53 | 8. 山形県: 3.20 | 11. 岩手県: 2.51 |
| 3. 北海道: 3.76 | 6. 大分県: 3.47 | 9. 愛媛県: 3.06 | 12. 佐賀県: 2.48 |

今週の感染症動向

感染性胃腸炎は2週連続で減少し、3万例を割り込んだが、例年に比べてかなり多い状況が続いている。地域別の定点当たり報告数は大分県(19.14)が最も多く、警報レベル(20.00)に迫っている。以降は愛媛県(16.83)、宮崎県(15.92)、鹿児島県(15.16)、香川県(13.79)が続く、九州・四国地方での流行が見られた。インフルエンザは第8週以降、9,000～1万例台の間で推移している。昨年とはまた異なる動向が見られ、二峰性のピークは示されなかった。A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は2週連続で減少した。RSウイルス感染症は前週から減少したものの、定点当たりの報告数(1.18)は観測が始まった2018年以降で最多の状態が続いている。2021年以降は年間の動向が定まっておらず、今年の動向も注視される。伝染性紅斑、急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎は引き続き、過去10年で最多の状況が続いている。年度末・年度始めの時期。各感染症の動向に変化があるのか注目したい。